

② 福島県川内村 20km 圏内 除染部隊



前列左から二人目／藤崎隊長

工事部解体事業課 課長 藤崎 鉄雄
あの震災から一年がたとうとして、私が初めて被災地を訪れたのは七月初旬の頃でした。映像では分からない被害の広さに呆然とし、私は東北のために何が出来るのか、ひたすら考えるものでした。二〇一一年新潟での最後の解体工事を終え、私たち九名が向ったのは、福島原発二〇km圏内にある川内村での汚染土壌の除染工事でした。JA発注のモデル事業で田畑の土を地表から約三cmすきとり、放射線量を測定する作業です。普段は着慣れないプラスチック製の防護服二枚を重ね着し、マスクを着用、私たちが体内線量を毎日のように観察しながら約三週間の作業を完了してまいりました。各地で災害復旧の様子を報じるニュースや新聞を毎日のように目にしていきます。全国的にも注目される除染作業に参加した事は一生私たちの記憶に残る経験になったと思います。もうすぐ春になります。川内村での本工事も始まる事と思います。被災地の一日も早い復興のために私たちが力をあわせ頑張っています。

我が社の誇り高き選抜オペレーター部隊



後ろ姿です

免許証のあるベテランオペレーターが足りなくて、山、田、畑の除染作業は長く続くだろう。二〇km圏内の移動は圏内専用車を別に用意しなければならぬ。我が社のベテランオペレーターを各所に配置して、そこに通常の作業員をつけて除染作業を行う。ノバックに詰めて遮蔽シートで囲った穴に土を被せ線量検査をして埋める。仮置場である。繋がれた家畜は白骨化して朽果てた。だが放した牛などは自分で水を探し、草を食べ、野性化して生き延びている。クラクションを鳴らしても動じず道に立って、直接オフアが来る様になった。お酒が好きな藤崎隊長。

③ 福島県相馬市 タクマ君現場 桜丘小学校体育館解体工事

工事部主任 上村 卓磨
「タクマ、体育館解体するぞ！」やる気は満々だったが、「どうやって解体すればいいんだろ？」悩みに悩んだ結果、鉄さんに相談した。「0.7BH」や高さが足りない。それならクラッシングセンターが誇る0.4BHロングアームを持ってこよう！」と素晴らしい考えが浮かんだ。体育館の造りを見た後、柱は木造り、梁はトラスという難しき昔の造りだった。木造部分を0.4BHロングアーム(回転フォーク)、トラス部分を0.7BH鉄骨カッターで解体することにした。はじめての鉄骨カッター、はじめての公共の現場ということ。この経験を活かして今度はS造解体やRC解体を勉強し、今は鉄さんを越えるのが自分の目標です！

すべては常務の言葉からはじまった...



上村 卓磨



一生懸命勉強中

我が社の宝シリーズ①

頑強なタクマ！うちの会社はお前の双肩に掛かっている！春になったら少しは軽くなるように俺からもお願いしよう！
——会長より



タクマは二十四歳。大きく成長した。自分でパソコンを買い、原簿管理、日報整理、実行予算の書き方を教えてもらい、相馬市の現場を一人で十ヶ所程受け持ち、軽自動車に二人の作業員を乗せて毎日現場へ通っていた。タクマの現場に着いたのは夕方だった。相馬駅裏の繁華街だった。建物の密集地なので建物の間をチェーンソーで解体しなければならぬ難しき現場だった。タクマがお願いがありました。と言ってきた。「ダブルキャブと発電機を買って下さい。」軽自動車にいくつかの荷物を積んで三人乗りです。一月十四日、本社にダブルキャブが届いた。タクマは一言、「大事に使います。ありがとうございます。」と、お礼を言っていました。タクマは、お礼を言われるのは初めてだった。大きく育っていた。嬉しくなった。



分布図

⑦ 多賀城市 マクドナルド解体



マクドナルドがあるようなところまで津波は押し寄せた。真嶋と角屋の共同の現場です。

⑧ 岩沼市下野郷 瓦礫回収



岩沼市、春山建設は地元一番の建設会社です。桐生聡悦の担当です。

1階 JV 事務所 / 2階 クラッシング事務所



写真中央、背中を向けているのが我がクラッシングセンター 代表取締役社長 桐生泰一郎(31歳)



近隣の仮設住宅から4名のお母さん達にお手伝いに来てもらっています。お母さん達からのお願いで、春にはこのお母さん達の仮設住宅でお花見などのイベントを続けていく予定です。マスコミにも取り上げられない様な小さな仮設住宅をこれかまとも支えていきたいと思ひます。お母さん達にもそう願ひされました。自分達も被災者なのにいつも笑顔がありがたう。

東北支店事務所



桐生工業・山崎土木・森本組・新越舗装・機材センター・モータープール など 15,000㎡の敷地です

① 宮城県亘理郡山元町 クラッシングセンター 東北支店 クラッシングビルレジ

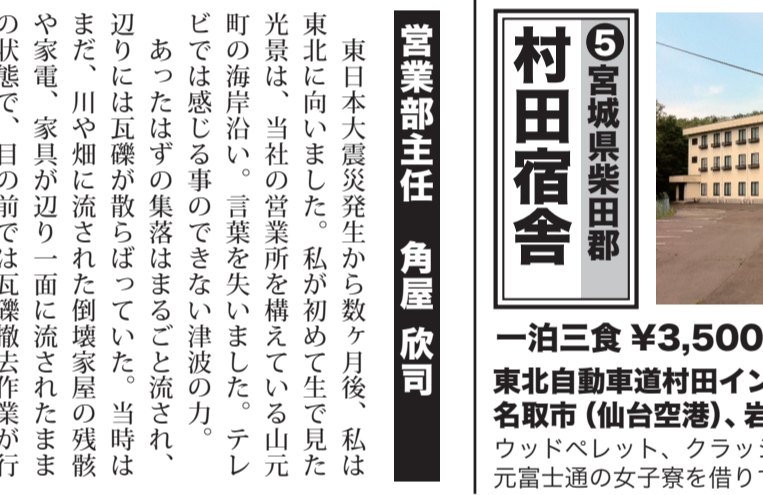


一般土木施工管理技士 日置(七キ) 支店長代理

その日は被災地、大子町で伐木作業を行っていました。突然思考が止まる程の地震がきました。生活ラインのすべてが止まり、情報もなく、ただ待つだけでした。東北支店からオフアがあり、六月にこの山元町へ足を踏み入れました。その時にした物は凄惨な現状でした。これからここで何が出来るのか？何をすれば良いのか？考えるよりもまず行動する事だ。「被災地で生きてゆく。被災地の空気を吸い、一緒に生きてゆく。」瓦礫撤去から始まり、今被災家屋の取り壊しを行っている。いつも被災家屋に足を踏み入れるたびに胸が詰まります。時間が止まったままなのです。でも人間は強い生き物です。協力しあい未来に向かって進むしかありません。この出来事を残す為にも。



クラッシングセンター本社営業部に 営業 角屋 欣司



営業部主任 角屋 欣司

⑤ 宮城県栗田郡 村田宿舎

一泊三食 ¥3,500 TEL 0224-87-7827

東北自動車道村田インター下りて1分/名取市(仙台空港)、岩沼市まで車で20~30分

ウッドパレット、クラッシングが運営する宿舎です。元富士通の女子寮を借りて70名の作業員が入っています。

④ 宮城県石巻市 中島・野沢君現場 石巻水産加工センター解体工事



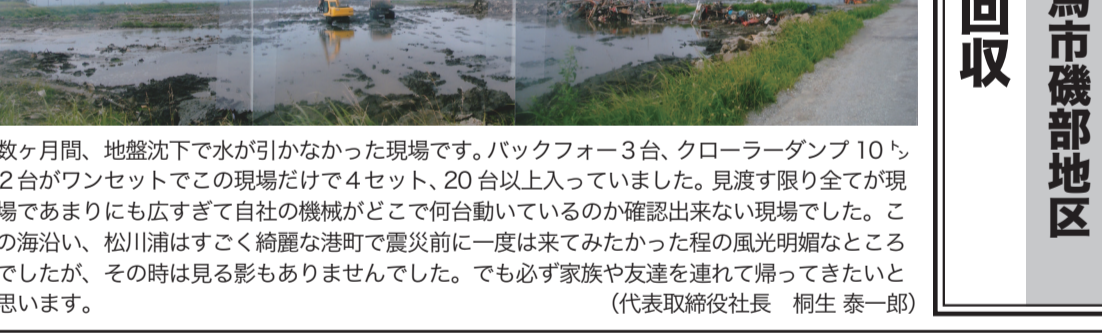
目の前が港です。地盤沈下がすごく、周りの道路は盛土舗装です。



コンクリートは道路盛土にします くら大和煮の缶詰

この石巻の復興工事は2千億弱で鹿島建設が

⑥ 相馬市磯部地区 瓦礫回収



数ヶ月間、地盤沈下で水が引けなかった現場です。バックホー3台、クローラダンプ10ト2台がワンセットでこの現場だけで4セット、20台以上入っていました。見渡す限り全てが現場であまりにも広すぎて自社の機械がどこで何台動いているのか確認出来ない現場でした。この海沿い、松川浦はすごく綺麗な港町で震災前には来てみたかった程の風光明媚なところでしたが、その時は見る影もありませんでした。でも必ず家族や友達を連れて帰ってきたいと思ひます。(代表取締役社長 桐生 泰一郎)



野沢 隆

長岡工業卒の頭のいい男です。大型公共工事の難しい現場で頑張っています。施工管理技士も一発で取りました。有資格者除去も勉強させていきました。私、野沢隆です。頭を引く張っていい男です。頑張って上を目指してほしいと思ひます。——会長より

解体施工管理技士 現場代理人 野沢 隆
私は石巻市で水産加工センター解体工事の現場管理をしています。はじめは漁港にある大型冷蔵庫の解体工事着手、現在は土間、基礎部分の撤去作業を行っています。後に地中にうちこまれた基礎杭の引き抜き、外溝撤去、敷地へと作業を進め、合わせて発生したコンクリート塊を破砕機を使って盛土用の砕石を製造し施工完了となる予定です。

工事部一級建築士 中島 茂

早朝六時に宿舎を八時離れた石巻の現場に着いて最初に目にしたのは、報道で見た日和橋の先に巨大なタンクと波に流され陸上に放置された漁船でした。震災の爪痕がそこにはありません。次に不思議だと思ったことは、整備された舗装道路の上に盛土して利用していることでした。それもガードレールの高さまで約七十センチくらいでした。側溝もあり清掃さえすれば簡単に大きな道路が利用できるのになぜだろうと地元の人達に聞いたところ、数日前までは冠水状態だったの地盤が八十センチほど陥没しているんだと話してくれて地震の恐ろしさがそこにありました。まだまだ微力ではありますが、少しでも復興の手助けが出来ればと思ひ、引き締めたところです。